

学校だより 3つの「あ」×3つの「ことば」

けいせい

帯広市立啓西小学校

どんだん(活動する子)

わくわく(感動する子)

いきいき(表現する子)



令和8年7月3日発行

子ども達の多様な学びの場、居場所の確保に向けて…

日本の不登校の児童生徒数は12年連続で過去最多を更新し、令和6年度には小・中・高を合わせて約42万人に達しています。こうした背景から、国では、学校復帰をさせることを重視していたこれまでの対応から、一人一人のニーズに応じた多様な学びの場を確保するなど、支援の方針を転換しています。

こうした国の方針に合わせて、本校および帯広市においても、多様な学びの場や居場所の確保、子ども達の心の小さなSOSを見逃さないよう、取組を進めております。

(1) 校内教育支援センター「ほのぼの」

校内教育支援センター「ほのぼの」は、様々な理由で教室に入りづらい子どもが、一時的に教室以外の落ち着いた空間で自分のペースで学んだり、生活することができるよう、校内に設置されたスペースです。「ほのぼの」で、心の安定をはかりながら、段階的に教室への復帰や学習復帰を目指していきます。



(2) こころの教室相談員

「こころの教室相談員」は、保護者でも教員でもない立場として、子どもたちの様々な悩みや不安を和らげ、気軽に話せる話し相手となる職員です。本校には、こころの教室相談員として、牛草広之さんが週に1～2回来校し、3階の相談室に在中しながら、相談を希望する子どもや保護者との面談等を行っています。



(3) 「心の健康観察」の活用

「心の健康観察」は、児童が一人一台端末を使って、その日の自分の心の様子や相談したいことなどを入力し送ることで、子ども達のメンタルヘルスの悪化や小さなSOS、人間関係の変化等、子ども達の小さなSOSを教員が察知しながら、問題が表面化する前に早期に対応できるように進めています。



(4) 「教育支援センターひろびろ」「ひろびろチョイス」

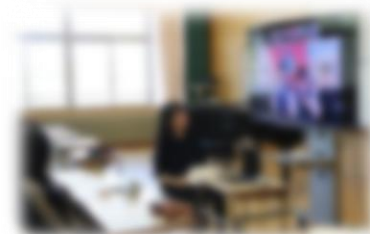
本校独自の取組ではなく、帯広市全体の児童生徒を対象とした支援体制です。「教育支援センターひろびろ」は、帯広市が管理する施設であり、様々な理由で学校に通えない児童生徒が、専属スタッフが在中する中、施設の中において学習したり、施設外の場所において様々な体験を行ったりしています。また、「ひろびろチョイス」は、希望する児童生徒が自宅から一人一台端末を使って、「メタバース(仮想空間)」に「アバター」として登校し、生活や学習や様々な体験を行っています。

(ご利用の希望や詳細を知りたい方は、学校までお問い合わせください)



いじめ・非行防止サミット（6月24日）

小中学校の児童会、生徒会の代表が、いじめや非行防止など共通のテーマについて話し合う「いじめ・非行防止サミット」が24日(水)に、市内の各それぞれの学校においてオンラインでつながりながら開催しました。今年度のテーマ「誰もが安心して過ごせる学校づくりのために、児童生徒会でどんなことができるか」のもと、本校児童会三役の3名が代表として、「花丸挨拶ラリー」等の取組について紹介しました。また、他校の取組紹介を聞きながら、詳しく知りたいことを質問していました。みんなが安心して過ごせる学校づくりに向けて、市内の学校が心をつなぐ一致団結できた時間でした。



2年生 交通環境学習（6月30日）

生活科の学習の一環として、2年生で「交通環境学習」が行われました。学校の駐車場にやってきた本物の路線バスに、整理券を取って乗車する体験や運賃(子ども達が事前に紙で作ったお金)を支払い下車する体験を行いました。また、バスの運転席に実際に座ったり、停車しているバスを観察しながら、タイヤやミラーの数を数えるなどの学習を行い、いろいろな新しい発見をすることができていたようです。



やったね！啓西っ子！

令和8年度第29回北海道小学生ハンドボール大会
兼 第39回全国小学生ハンドボール大会予選会

男子 優勝



第5回北海道ミニバスケットボールサマーフェスティバル
十勝地区予選大会

第4位 帯広啓西ミニバスケットボール少年団



これからも啓西っ子の
活躍を期しています(^_^)